東京都障害者スポーツ指導員協議会　http://www.tcsid.jp/
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 12 階東京都障害者スポーツ協会気付

協議会たより

第 127 号　発行平成 24 年 9 月 12 日

東京都指導員協議会総会報告

協議会会員の皆様のおかげをもちまして、無事総会が終了しましたので報告します。

日　時：平成２４年４月２１日（土）１５：２０～１６：１０
場　所：東京都障害者総合スポーツセンター 集会室
進　行：三浦理事

１．開会挨拶（岡副会長）

現状の会員数は１，６００人超、うち５００～６００人前後が学生で入れ替わりが多い状況である。平成２５年度には全国障害者スポーツ大会東京大会が控えているが、まず今年度の事業で各会員それぞれが研鑽を積んでほしい。

２．来賓紹介

近藤 和夫 氏（東京都障害者スポーツ協会地域スポーツ振興室主幹／東京都障害者スポーツ指導員協議会前理事）

日頃より会員各位の両センター・地域振興に関する事業への協力に感謝している。引き続きの協力と次年度の東京国体にも尽力いただきたい。

３．議事

（１）開会・定足数の確認

日本障害者スポーツ指導者協議会登録数：１６４３名（平成２４年１月現在）
総会出席者３４人　委任状３１３人　計３４７人となり、総会成立

（２）議長選出

自薦・他薦による選出なし　⇒事務局より会員井野さんを推薦、拍手により承認

（３）書記選出

事務局より佐野(守)理事・会員柳橋さんを選出

（４）平成２３年度事業報告の承認

〇総務部 植田理事より
・ここ数年間、会員数は１６００人ほどである。
・事務局活動としては、３～４名が交替で作業や問い合わせに対応している。
・昨年度まで４年間前田会長が関東ブロック長であったが、Ｈ２４年度は埼玉が担当。

〇広報部 秋山理事より
たよりの発送、およびホームページの更新等を実施
９月号…活動報告、理事会議事録など
３月号…総会のお知らせ、理事会議事録、活動報告など
両号とも東京都を活動拠点として登録している指導員を対象に郵送した。

〇研修部 井上理事より
・２３年度は総会実施時に全国障害者スポーツ大会の障害区分に関する研修を実施。
・その他、両スポーツセンターで実施する講習会に共催として４回協力した。

（５）平成２３年度決算報告の承認（監査報告）

〇会計担当 佐野(里)理事より
・「収入の部」会費内備考の会員数は、１５７５名ではなく正しくは１６４１名
・「支出の部」人件費は事務局員の退職に伴い、理事が交代で補助員となったため変更
・「支出の部」たよりの送料は、Ｈ２２年度３月発送分とＨ２３年度９月発送分
・監査報告として、安田徳男（篠原政良）さんから帳簿類と相違なき報告あり

（６）平成２４年度事業計画の承認

〇総務部 植田理事より
・各実施事業のより一層の充実をはかる。地域振興事業においては、スポーツ推進委員との連携が重要である。
・理事会は原則として奇数月の第一火曜日に開催
・東京都障害者スポーツ協会との連携をより一層強化する。

〇広報部 秋山理事より
・広報紙は年２回発送。内容として連載、シリーズもの、講座、Ｑ＆Ａなど、内容の充実をはかりたい。
・ホームページの運営についても見直しを検討中
〇研修部 井上理事
・両スポーツセンターとの共催での研修を中心に実施する。
・指導員協議会単独開催として、11 月 10 日にアーチェリーをテーマにした講習会実施予定。詳細は９月のたよりに記載する。
・全国障害者スポーツ大会東京大会リハーサル大会が１１月１８日に辰巳国際水泳場にて実施される。

（７）平成２４年度収支予算の承認
〇会計担当 佐野(里)理事より
・「収入の部」会員数１７００名として算出している。
・「支出の部」ホームページ用のセキュリティーソフトとロッカーを新規購入する

（８）理事の解任と新任について
（公社）東京都障害者スポーツ協会の人事異動に伴い、近藤和夫理事・矢本敏実理事にかわり、新理事として総合ＳＣ横田篤志スタッフ・多摩ＳＣ柳橋千恵スタッフが就任する。 ⇒拍手により承認

（９）議事録の署名人の選出
江上理事、会員本城美智子さんより申し出あり、了承される。

◎以上、議事についてはすべて承認された。

報告事項
〇第１２回東京都障害者スポーツ大会について
・参加者３２４９名（昨年より１３名増）個人競技が若干増加、団体競技は減少。
・６月に全国障害者スポーツ大会岐阜大会東京都選手団を決定、１０月１１～１６日に岐阜県へ派遣
・合同開会式を５月１３日に実施。入場行進に参加する障害当事者の方を募集中。

（１０）閉会挨拶（前田会長）
今年度も課題が多くあるが、会員同士が協力し合っていってほしい。

総会時研修報告 「スポーツを楽しむ」 ――4 月 21 日（土）総合ＳＣ体育館

私たち指導者には、単にスポーツの技術やルールを教えるだけではなく、カラダを動かすことの心地よさ・楽しさを伝えることのできる技術を持つことが求められています。それには私たち自らが、スポーツの持つ心地よさや楽しさを理解していなければなりません。今回の研修は、参加者自らがそれらのことを体得することを目的に行われました。どのようなアイスブレークで雰囲気を創り、またどのようにルールや道具を工夫して参加者が楽しめる場を創っていくか、ということを実践のなかで学びあいました。

種目は精神の方が行っているソフトバレーボールと、シッティングバレーのコートとネットを使ってのふうせんバレーを用いたゲームを行いました。みんなで和気あいあいと、時にムキになって楽しみました。ゲームが終わった後はみなさん汗ビッショリで、口々に「チョー楽しかった」・「気持ちよかった」等々と話をしながらクーリングダウンをして、 2 時間の研修を終えました。

ご参加いただいたみなさん、本当にお疲れさまでした。目的通りの研修になりましたでしょうか？
また、やりましょうネ！！(研修担当神保)

理 事 会 報 告

平成 24 年度 第 2 回理事会報告 平成 24 年 5 月 1 日 書記 神保秀久

≪報告事項≫
１．会長より (岡 副会長より)
総会も無事終了しありがとうございました。今年度も理事として宜しくお願いします。
２．都スポーツ協会より
会長交代、地域開拓推進事業の件。多摩・総合両センターの事業計画他。
３．関東ブロックより
５月 17 日研修部会、６月９日埼玉交流センターにてブロック幹事会。今年度の全国研修は来年２月に九州福岡で開催。

≪協議事項≫
１．総会の反省
（１）研修会：スポーツを楽しむという目的が達せられた。保険を掛けなかった事が心配だった。今後は協議会主催の研修会等の事業には保険をかけることを前提に検討する。

（２）総　会：発言のない静かな総会だった。議長選出が毎年大変。議事録署名人が手配出来なかった。

（３）懇親会：1000 円会費のメニューとしては素晴らしかった。聴覚障害の男性がいたが、個人的活動なので手話通訳は自身で手配するよう伝えた。

２．協議会ユニフォームについて

（１）進捗状況：デザイン、費用など業者と調整中。

３．平成２４年度　理事役割分担

総務部	部長三浦・植田・高山・松浦・柳橋・横田
研修部	部長神保・副部長佐野（守）・井上・岡・大森・江上
広報部	部長秋山・島
会　計	部長佐野(里子)・近藤
事務局	前田・岡・井上・秋山

４．協議会の今後の改善に向けて

（１）秋山理事からの広報原稿依頼：書籍の紹介（植田）、子供の発達に合わせた指導（松浦）

（２）理事の役割

①居住（勤務）地でのスポーツ振興

②スポーツ祭東京 2012 の開催に対する競技ごとの協力体制づくり

③スポーツ推進委員との協働推進の場づくり

④その他

〇両センターと連携をとり、受けやすく学びやすい研修テーマを探っていく。

平成 24 年度 第 3 回理事会報告 平成 24 年 7 月 4 日 書記　横 田

≪報告事項≫

1. 会長より(岡　副会長より)

・陸上、水泳など都大会の前半部が終了、まだ、後半に実施される競技もあるが、多くの指導員の方が大会に協力してくれた。

・前田会長が「スポーツ祭東京 2013」の実行委員の副会長に任命された。

2. 都スポーツ協会より

高山理事より

・都大会運営協力にいてのお礼

・第12回全国障害者スポーツ大会（ぎふ清流大会）の選手・役員のエントリーが先月末に終了した。今大会では車椅子バスケットボールが予選会を突破し、出場権を得た。本協議会からは陸上競技に島理事、金子順治さん、高山真理子さん、卓球競技に楡井久仁子さんが選手団のコーチとして派遣予定である。

横田、柳橋理事より

・東京都障害者総合スポーツセンター、多摩障害者スポーツセンター、両センターの協議会共催の講習会について

講習会の日程、協力内容の確認が行われた。両センターと協議会の3社で企画運営を行う、平成25年3月10日開催の「スポーツリーダー講習会」については研修部と企画を行い、実施していく。研修部長の神保理事より、共催講習会の運営については研修部のみでの実施は難しい、内容の最終決定や当日運営なども含めて、多くの方に協力をお願いしたいとの話があった。 また、25年度の両センターの講習会内容についても部会や会議などで意見交換を行い、協議会の意向を反映したものに出来ればと柳橋理事より話があった。

3. 関東ブロックより(高山理事より説明)

・11 月 24,25 日に埼玉交流センターで関東ブロック研修会を開催する。協議会としては積極的に参加し会の成功に協力していきたい。

4. その他(岡　副会長より)

・スポーツ祭東京 2013 の水泳リハーサル大会について

11 月に開催、東京都から都水協に競技運営の依頼があり、本協議会からも36名の競技役員の派遣を行う。

≪協議事項≫

1. 各部会の事業計画及び予算案の詳細

(1)総務部会…三浦

6月26日にスポーツ祭東京2013に向けての協議会としての関わりについての話し合いを行った。

(2)研修部会…神保

6月28日部会を開催。内容としては両センターで実施する講習会についての話し合いを行った。

(3)広報部会…秋山

島理事とメールで意見交換を行った。9 月からのたよりの内容についての検討を行った。

(4)会　計　…佐野里子

可能であれば次年度の予算案については総会前に案を提出し、検討・決定していけばと思う。

2. 協議会ユニフォームについて

調整中

3. 7 月 10 日　都スポ協役員との懇談会について

（1）参加者確認

前田会長、上田副会長、三浦理事、神保理事、島理事、高山理事、柳橋理事、横田が参加

（2）懇談テーマ（指導員協議会からの要望）

①都スポ協と指導員協議会のより踏み込んだ一体化を探っていきたい

②来年の全スポで共催団体である指導員協議会の位置付けが水泳・陸上競技以外、役割が未だに不明確である。早急に明確に示して欲しい。

③都スポ協（センター含む）職員の指導員協議会の会議参加、活動支援は全て勤務扱いにして頂きたい。

4. スポーツ祭東京2013（東京国体　全スポ大会）

（1）スラローム監察員・音源走競技審判法等の視察

（2）メイン会場での指導員協議会テントの設置

（3）オープン競技への指導員の協力派遣

5. 次号のたより発行予定

（1）原稿締切　8月31日（火）（2）発送作業　9月12日（水）

6. 次回の理事会

9月4日（火）19：00～20：30　協会

全国スポーツ推進委員研究協議会に参加して

平成 23 年 11 月 10 日（木）～11 日（金）東京体育館、主管東京

都スポーツ推進委員会にて、”スポーツの力で日本を元気に～実りある生涯スポーツ社会を全国の仲間と創ろう～”とのテーマで開催された。

平成23年8月24日から施行された「スポーツ基本法」で従来の「体育指導員」の名称が「スポーツ推進委員」に変更された。”全国スポーツ推進委員研究協議会”で開催される事になった。

スポーツの推進の為の事業の実施に係わる連絡調整の役割などについて、時代と共に変化するスポーツの多様なニーズに柔軟に対応し地域におけるスポーツ推進に係わる体制の中核的存在として、スポーツを通じて地域社会の活性かも視野に入れて、地域スポーツの更なる発展を担っていく事、今後の地域におけるスポーツ現場に活かしていく等が話し合われました。

２日目には、品川区のきゅりあん（品川区立総合区民会館）にて、第4分科会で障害者のスポーツ参加とスポーツ推進委員の役割についての講義に参加しました。

スポーツ推進委員は、スポーツ活動を通じ地域住民の健康増進に寄与する重要な役割を担っているが、これまでの活動は健常者を中心に行われてきたきらいがある。一方障害者スポーツは、パラリンピックの開催や、トップアスリートの活躍等によって

これまでの福祉施設やリハビリテーション的な捉え方から競技としての側面が、注目されはじめたことから今後も地域において障害を持つ方がスポーツに親しみ、ニーズはますます高まっていくものと考えられます。

地域スポーツのコーディネーターであるスポーツ推進委員は、今後の活動の中でも障害者との関わりをより意識した活動を心がけていかなければならない。

各地でのスポーツ推進委員と障害者との関わり、日常的な障害者スポーツ活動におけるスポーツ推進委員が担うべき役割について討議した。今後各スポーツ推進委員が、障害者スポーツに一人でも多くの人が携わって理解を深めていただく事を

願い、また協議会に参加し大変良い機会だったと思いました。（佐野守）

東京都障害者スポーツ協会との懇談会を行いました！！

７月 10 日、都スポーツ協会と指導員協議会の懇談会が協会近くの「神楽坂飯店」で開催されました。指導員協議会からは、前田会長、植田副会長、神保、三浦の各理事が参加、都スポーツ協会からは４月に新しく就任された中野会長はじめ、地域振興担当の方等多くの参加者で懇談等相互の親睦をはかることができました。

さて、来年度は東京で国体が開催される年、協議会では協会と指導員協議会との一体化、スポーツ祭東京での指導員協議会の位置づけの明確化、協会職員が指導員協議会の会議などに参加する場合の取り扱い、全スポでＰＲを行うブースの設置などについて要望をさせていただき、これからも一層連携を強めることを確認しました。

また課題はたくさんありますが、２０１３スポーツ祭東京を、指導員として一生に一度の大会と位置づけ力を注いでいきたいものですね。（三浦卓也）

指導員のための　講　座

認知特性に配慮した指導

筑波大学附属桐が丘特別支援学校中高等部　松浦孝明

肢体不自由特別支援学校の体育授業では，生徒の認知特性に応じた指導が進められています。特に，視覚認知の特徴に応じた指導が行われています。

人は、目でとらえた光刺激を視神経を通して脳の視覚中枢で画像として判断（知覚）しています。ただし，この段階では見たものが何であるかを判断しておらず，その画像が何であるかを判断する別の中枢が正常に働いて，初めて見たものがわかることになります。これが視覚認知です。視覚認知は対象物を視覚により正確に知覚するという課程と，知覚されたものを過去の経験や知識に照らし合わせて判断する課程を含んでいます。視覚認知の障害は脳のダメージが原因となります。脳性麻痺を主とする脳に障害のある子どもは，視力は正常であるにも関わらず，見たものを理解しにくい人がいます。このような人たちは，運動中に他者の動きを上手にまねできない，競技中のラインがわからない，ダンス中に自分位置がわからなくなる，球技でゴールと違う方向にドリブルしていくなど空間の把握が難しい様子が見られます。簡単な整列でも列が整わないこともあります。

このようなケースには，以下のような配慮が必要です。

①体の軸，空間の左右，高低をことばで確認しながら進める，その際には身体の部位を基準にした運動イメージの形成を大切にし，徐々に身体から離れた空間の運動をイメージできるように広げてゆく，

②運動の情報をことばで伝える時は，わかりやすく具体的なキーワードを用いて指示する，

③見本を示すなど視覚的に運動を伝える場合，情報を最小限にしてゆっくりと複数回繰り返して見せる，また，視覚情報を取得しやすいよう周囲の環境を工夫する，

④身体の動きを指導者がサポートしながら体感させる。その運動を子ども自身が自分のことばに置き換える（運動のイメージや身体のイメージとことばのイメージを一致させてゆく）

スラロームの指導を行う場合，脳性麻痺児を指導する場合と筋疾患のある子どもを指導する場合，全く同じように指導しても脳性麻痺児の記録の向上は望めません。脳性麻痺児の視覚認知特性に応じた配慮を加えると脳性麻痺児も上手になります。

肢体不自由児を指導する場合は，機能障害に着目するだけでなく，認知特性にも配慮した指導を行うことが今後の重要なポイントになります。

今 後 の 研 修 予 定

◎10 月 20 日（土）　テーマ「障害のある方と共に学ぼう」
時間未定　会場・申し込み、問い合わせ：多摩ＳＣ

◎11 月 10 日（土）　アーチェリー（コンパウンド）研修会
９～12 時　総合ＳＣ（集会室・洋弓場）
講師　秋山なるみさん（日本記録保持者・第 46 回世界大会日本代表・当会理事）
参加費　500 円（弓レンタル料他、当日徴収します）
申し込み・問い合わせ：指導員協議会事務局

◎11 月 24 日（土）・25 日（日）　関東ブロック研修会　内容時間等は未定
会場　埼玉交流センター　内容・時間等未定
申し込み・問い合わせ　関東ブロック指導者協議会事務局　白石三重子宛
E-mail　jimukyoku@kouryu.net　TEL 048－834－2248　FAX 048－834－3333

◎平成 25 年 3 月 10 日（日）　スポーツリーダー講習会（内容・時間等未定）
会場・申込み・問合せ　総合ＳＣ

◎平成 25 年 4 月 20 日（土）総会時研修　――　内容等　詳細は、次号のたよりでお知らせいたします

＊多摩ＳＣ：東京都多摩障害者スポーツセンター　TEL 042－573－3811　FAX 042－574－8579
＊総合ＳＣ：東京都障害者総合スポーツセンター　TEL 03－3907－5631　FAX 03－3907－5613
＊指導員事務局：℡090-1034-5963　毎週水曜日 13～17 時　Email info@tcsid.jp　FAX 03－5206－5587

障害者スポーツに関するお勧めの書籍　　植田敏郎

①『障害者とスポーツ』　　高橋 明 著　岩波新書　７００円

日本の障害者スポーツ発祥の地が大分県の太陽の家であれば、市民スポーツとして障害者スポーツを普及したのが、日本で最初の障害者専用スポーツ施設を開設した大阪である。著者の高橋氏はその大阪の長居障害者スポーツセンター、そして、舞洲障害者スポーツセンターに勤務する傍ら、日本障害者スポーツ協会の要職も務め、広く障害者スポーツの普及・振興や指導者養成の面でも日本を代表する貢献者の一人である。

このお薦めの書籍は、障害者に対する見方から、障害者スポーツの歴史や魅力など幅広く説明されており、また、生涯スポーツとしての位置づけから競技スポーツへの進展など、ロンドンパラリンピックを思い出しながら読みふけるのも最高だと思う。馴染みのある岩波新書からの出版も魅力ある点で、ぜひ、ご一読ください。

②『障害者スポーツの世界～アダプテッド・スポーツとは何か～』

藤田 紀昭 著　角川学芸出版 発行　２４００円

アダプテッド･スポーツとは聞き慣れない言葉かもしれませんが､スポーツは障害のあるなし、老若男女などに関わらず､誰もが経験できる開かれた活動であるべきとの考えが根底にあります。著者は現在、日本障害者スポーツ協会技術委員、指導者協議会研修部長などの要職にあり、同志社大学で教鞭をとっています。

障害者スポーツの入門編から指導者編まで幅広く書かれており、また、パラリンピック競技をはじめ、４２種のアダプテッド・スポーツを紹介しています。また、障害者スポーツ選手や家族、指導者などのインタビューも載せてあり、東京の指導者も登場しています。障害者スポーツ指導者の必読の書です。

事務局からのお知らせ

今回のたよりは、志向を変えてみました。
書籍の紹介、指導者としての講座を新連載しました。今後の活動に役立てていただきたいと思います。
また、掲載してほしい企画等を募集しております。メールにてご意見、ご要望をお願いいたします。（広報担当）

前田会長がロンドンへパラリンピックの応援に行ってきました!!

非常にいい大会でした。イギリスの人たちは観光立国なのか海外からのパラの応援団の人々及び観光に来ている人々の道の案内・鉄道の案内に非常に優しく親切に対応をされていました。また、スポーツ観戦には家族ずれで参加されて、何時も会場は満員で、会場を大いに盛り上げていました。人と人とのぶつかる場面は一つもなくて、いつも余裕を持って行動をしているように見えました。（前田）

編集後記

秋の気配がすると言いたいのですが、
まだまだ続くこの暑さに〝ウンザリ〟のこの頃です。
ロンドンパラリンピックでは、選手が活躍する姿にもらい泣きしてしまったし、
国枝選手とゴールボール女子チームの活躍がホントに素晴らしかったですね。
この感動を東京国体全国障害者スポーツ大会に続けていきたいものです。